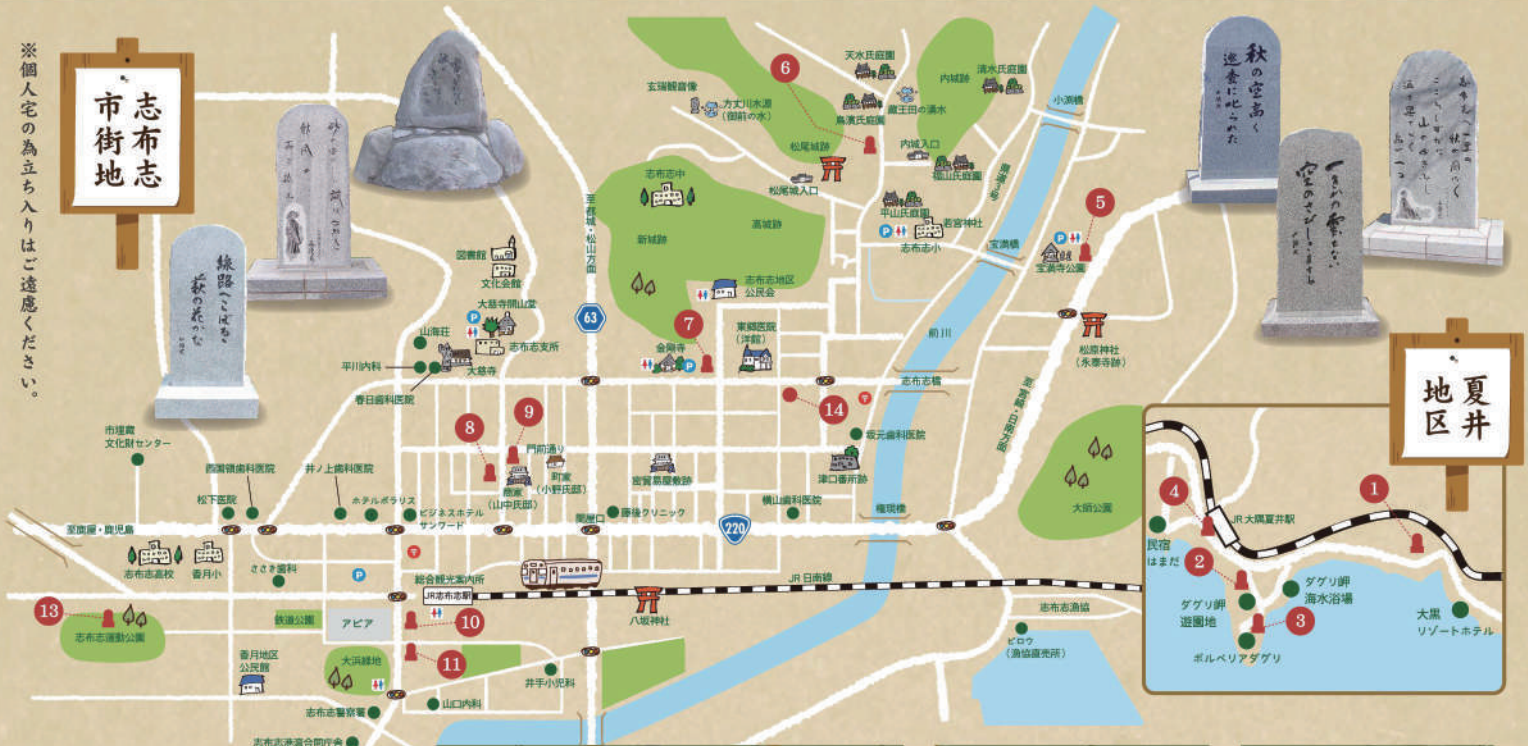


※個人宅の為立ち入りはご遠慮ください。



1  
ここまできて  
この木にもたれる

2  
砂がぼこぼこ  
旅はさびしい  
秋風の石を拾ふ

3  
志布志へ一里の  
秋の風ふく  
ころしずかに  
山のおきふし  
海は果てなく  
島は一つ

4  
線路へこぼる、  
萩の花かな

5  
家をもたない  
秋がふかうなった

6  
飲まずには  
通れない  
水がしたる

7  
秋の空高く  
巡査に叱られた

8  
松風ふいて  
墓ばかり

9  
秋の白壁を  
高く高く  
塗りあげる

10  
一きれの  
雲もない空の  
さびしさまさる

11  
砂掘れば  
すなのほろおる

12  
波のこみやかさも  
秋となった

13  
松葉ちり  
しるています  
おやすみなさい

14  
山頭火が宿泊した  
「鹿兒島屋」の跡には  
案内看板が設置され  
ており、宿で詠んだ  
と思われる句も掲載  
されています。